

令和7年度

シラバス

情報通信科 (C)

3年3組

福島県立小名浜海星高等学校

< 観点別評価・評定の算出方法 >

- (1) ①～③の観点別評価は、それぞれを100点満点とし、以下の到達度に応じて観点別評価をします。

観点別の点数	評価
72.6 ～ 100	A
37.6 ～ 72.5	B
0 ～ 37.5	C

- (2) ①～③の観点別の点数を合計(300点満点)し、3で割った点数が評点となり、5段階評価に使用されます(小数点以下四捨五入)。

- (3) 以下の表に基づいて評点から評定を算出します。評定「1」は欠点となり、単位不認定となります。

評点	評定
80 ～ 100	5
65 ～ 79	4
45 ～ 64	3
30 ～ 44	2
0 ～ 29	1

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2
対象クラス	C3年3組		授業担当者	中隅利恵・浅川康夫	

1 授業の内容と目標

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 評価の観点

- ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	60%	40%	定期考査、小テスト、授業態度
②	思考・判断・表現	60%	40%	定期考査、小テスト、授業態度、提出物
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	小テスト、授業態度、提出物

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2
対象クラス	C3年3組		授業担当者	深谷恵子	

1 授業の内容と目標

- (1) 近現代の歴史の展開を日本と様々な地域の関連性や地理的条件と関連付けて考察する。
- (2) 国家間の対立がおこる過程と経過を多面的・多角的に考察し、国際関係の変化を理解する。
- (3) 戦後の復興の過程と現代の国際社会の諸課題について学び、課題解決に向けて自ら探究する。

2 評価の観点

- ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	70%	30%	定期考査・単元テスト・授業態度
②	思考・判断・表現	70%	30%	定期考査・単元テスト・授業態度・提出物
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	授業態度・提出物

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	3
対象クラス	C 3年3組		授業担当者	角田春太	

1 授業の内容と目標

- (1) 指数関数と対数関数：指数を整数へ広げた指数法則を理解したり、桁数に関する対数について学びます。計算ができ、グラフがかけ、方程式・不等式が解けることが目標です。
- (2) 微分：微分係数や導関数の意味について理解し、関数の増減、極大・極小を調べたり、グラフをかいたりできるようにします。
- (3) 積分：積分について学び、直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積の求め方について学びます。面積の計算ができるようになることが目標です。

2 評価の観点

- ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	80%	20%	定期考査、小テスト、ワークシート
②	思考・判断・表現	70%	30%	定期考査、小テスト、ワークシート
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	ノート、行動観察、発表、自己評価

教科	保健体育	科目	体育	単位数	3
対象クラス	C 3年3組		授業担当者	清水裕之・蛭田昌幸	

1 授業の内容と目標

陸上競技、体づくり運動、球技、水泳、ダンスなど様々な運動を通して楽しさや喜びを味わう授業です。次のことを目標とします。

- (1) 約束事やルールを守る態度の確立
- (2) 健康・安全に気をつけて、仲間と協力して、自己の役割を果たす態度を育てる
- (3) 体の調子を整え、体力の向上を図る
- (4) 生涯を通して継続的に運動ができる資質を養う

2 評価の観点

- ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	0%	100%	学習カード、スキルテスト、授業態度
②	思考・判断・表現	0%	100%	学習カード、授業態度
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	学習カード、授業態度

教科	外国語	科目	英語コミュニケーション II	単位数	3
対象クラス		C 3 年 3 組		授業担当者	新妻さつき

1 授業の内容と目標

- (1) 新しい表現を学び、まとまった長さの英文を読んで（聞いて）内容を理解し、英語で自分の考えや気持ちを英語で話したり書いたりすることができる。
- (2) 新たに学んだ表現を用い、英語で自分の考えや気持ちを相手に伝えるとともに、相手の考えや気持ちを理解した上でやりとりができる。
- (3) 世界中の様々な事象や人物に関する英文に触れた上で、自分自身の考えや住んでいる地域の特性と関連付け、学んだ表現を用いて自分自身や自分の住んでいる地域について英語で発信できる。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	80%	20%	定期考査・小テスト・授業態度
②	思考・判断・表現	80%	20%	定期考査・小テスト・授業態度・提出物
③	主体的に学習に取り組む態度	20%	80%	定期考査・小テスト・授業態度・提出物

教科	水産	科目	課題研究	単位数	2
対象クラス	C 3 年 3 組		授業担当者	青木丈士・柴田真弥 ・菅原孝夫・荒川広子	

1 授業の内容と目標

- (1) 水産や海洋に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図る。問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。
- (2) ものづくりを基本コンセプトに、今までの座学や実習での経験と自分の持っている遊び心、想像力を発揮してテーマを自ら設定して完成させます。
- (3) モールス電信での約3分間の手送り送信及び音響受信
和文=1分間に70の速度、欧文暗語=1分間に80字の速度、欧文普通語=1分間に100字の速度

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	0%	100%	授業態度・実技テスト
②	思考・判断・表現	0%	100%	授業態度・発表
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	授業態度・自己評価

教科	水産	科目	課題研究（一海特）	単位数	1
対象クラス	C3年3組		授業担当者	手代森瑛司	

1 授業の内容と目標

- (1) 第一級海上特殊無線技士の英語を主に学習します。通信英語に使用される通信符号や緊急信号、呼出応答の方法や一般通信方法など、英語での通信を円滑に行う方法について学びます。（知識・技術）
- (2) 位置通報や緊急通信については、教科書に掲載された通信文例と全く同じ状況は存在せず、その時・その状況に応じて考えながら通信しなければならないため、自分が伝えたいことを間違いなく伝えられるよう基本と応用をしっかりと定着させられるようにしてください。（思考・判断・表現）
- (3) 教科書に掲載された通信文例を声に出して読んだり、隣の席同士で通信の練習を行うなどの学習を多く取り入れます。しっかりと声を出して良く読み、少しでも自分の通信技術を向上させられるよう前向きに取り組んでください。（主体的に学習に取り組む態度）

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	0%	100%	確認テスト・授業態度
②	思考・判断・表現	0%	100%	確認テスト・授業態度
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	確認テスト・授業態度

教科	水産	科目	総合実習	単位数	3
対象クラス	C3年3組		授業担当者	青木丈士・柴田真弥 ・菅原孝夫・荒川広子	

1 授業の内容と目標

- (1) 部品検査や配線、電子回路の製作等の電子工作、電気・磁気回路、電気・磁気の基礎計測、計測機器の使用法、ダイオードやトランジスタ等半導体の特性、ICの基本動作、各種電子回路の製作と特性測定を行います。
- (2) 水産や海洋の情報通信分野に関連して学んだ知識と技術を総合的に学習することで、実際に情報通信に活用する能力と態度を育てる。
- (3) モールス電信での約3分間の手送り送信及び音響受信
和文＝1分間に70の速度、欧文暗語＝1分間に80字の速度、欧文普通語＝1分間に1000字の速度

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	0%	100%	授業態度・レポート・実技テスト
②	思考・判断・表現	0%	100%	授業態度・レポート・実習製作物
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	授業態度・レポート・実習製作物

教科	水産	科目	海洋情報技術	単位数	1
対象クラス	C3年3組		授業担当者	鈴木毅	

1 授業の内容と目標

- (1) 主に、マイクロソフトの基本的なアプリケーションソフトウェア（ワード、エクセル、パワーポイント等）の取扱い方法を重点的に学習します。また、情報化社会に対応できる人間性を育成するため、自身に有益な情報、無益な情報を取捨選択できる情報モラルについても学習します。
- (2) 定期考査の他、実技の確認テストを数多く行います。一つ一つの操作を確実に覚えられるよう、分からない所はそのままにせず、先生や友人に質問したり、逆に自分が分かるときには周囲の友人を助けながら学習に取り組みましょう。また、特別教室での授業が主になります。公共物は丁寧に使用して下さい。
- (3) ワード、エクセル、パワーポイントは社会人になってもよく使用するアプリケーションソフトウェアです。得た知識・技術を授業内だけではなく社会に出ても使えるよう、長く使う知識を身に付ける気持ちで授業に臨んでください。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	60%	40%	定期テスト・小テスト・授業内の発言など
②	思考・判断・表現	60%	40%	定期テスト・小テスト・授業内の発言など
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	授業態度・提出物

教科	水産	科目	電気理論	単位数	3
対象クラス	C3年3組		授業担当者	手代森瑛司	

1 授業の内容と目標

- (1) 2学年で学習した交流回路の計算などを基礎とし、3学年からはより専門性の高い、電波の発生原理などについて学習します。移動体通信工学で無線機器や電波の仕組みを学習する上で重要となります。
- (2) 定期考査の他に、単元や内容のまとめり毎に確認テストを実施します。複雑な計算なども扱いますので、問題の数字や回路の接続の仕方が変わっても自分でしっかりと考えて解答できるよう、日ごろから「考えるクセ」を付けるよう授業に臨んでください。
- (3) この科目は、第二級陸上無線技術士(国家資格)を学習する上での基礎となる知識を身に付けることが出来ます。とても大切な学習となりますので、しっかりと予習・復習をしたり、先生や友人に聞いて分からないことをそのままにしないようにするなど、コツコツと努力することを心がけてください。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	50%	50%	定期考査、小テスト(授業時間内)発問に対する解答や授業中の発言など
②	思考・判断・表現	50%	50%	定期考査、小テスト(授業時間内)、提出物発問に対する解答や授業中の発言など
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	提出物、発問に対する解答や授業中の発言など

教科	水産	科目	移動体通信工学	単位数	2
対象クラス	C3年3組		授業担当者	青木丈士	

1 授業の内容と目標

- (1) 船舶など移動体における通信の変遷や構成、各種の通信サービスや無線通信機器の基礎回路、送信機、受信機に関する次の授業を行います。
- (2) 船舶など移動体の通信工学に関する知識と技術を学習し、無線従事者に必要な基本的知識を身につける。電子機器の取扱いや通信業務に活用する能力と態度を育てる。

2 評価の観点

- ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	50%	50%	定期考査・小テスト・授業態度
②	思考・判断・表現	50%	50%	定期考査・小テスト・授業態度・提出物
③	主体的に学習に取り組む態度	50%	50%	授業態度・小テスト・定期考査・提出物

教科	水産	科目	海洋通信技術	単位数	3 / 5
対象クラス	C3年3組		授業担当者	志賀孝	

1 授業の内容と目標

- (1) 通信実技 モールス送信／受信（和文70字、欧文暗号80字、欧文普通語100字）
- (2) 通信関係法規 無線従事者として必要な国内及び国際的な通信関係法規
- (3) 通信英語 海上通信に使われる通信英語・重要通信の例文を学ぶ。
- (4) 通信地理 航路、海岸局、海岸地球局、海上用無線標識局、漁業基地及び寄港地など。

2 評価の観点

- ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	50%	50%	定期考査・小テスト・授業態度
②	思考・判断・表現	50%	50%	定期考査・小テスト・授業態度・提出物
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	授業態度・提出物

教科	水産	科目	海洋通信技術	単位数	2 / 5
対象クラス	C 3 年 3 組		授業担当者	阿部雅史	

1 授業の内容と目標

- (1) 主にモールス信号の送受信技術の向上を目標として授業を行います。(目標：和文60字、欧文暗号70字、欧文普通語85字の送受信) そのため、モールス符号を間違いなく覚えること、符号表を見なくても送受信ができることを目標としてください。その他、通信関係法規(無線従事者として必要な国内及び国際的な通信関係法規)や通信英語(海上通信に使われる通信英語・重要通信の例文)についても学習をします。

無線工学に関する学習では、国家試験問題に対応できる知識の習得を目指します。

- (2) モールス信号の受信については、長短の符号構成を聞き分ける力、聞き取った信号を脳内に想起して文字に起こす力が重要です。そのため日ごろから、ただ受信するのではなく、それらの力をどのようにして伸ばすか、自分で考えながら授業に取り組んでください。また法規や英語に関しては、第三級総合無線通信士(国家資格)の過去問題とも照らし合わせながら、重要な語句、文章は何か考えながら学習に取り組んでください。

無線工学に関する学習では、ただ過去問題に解答できる知識ではなく、「なぜこの公式が成り立つのか」「計算問題の数字が変わったら解けるか」など考えながら学習してください。

- (3) モールス信号の受信については、通信の歴史と伝統を重んじ、長年培われてきた送信と受信の技術を学習するに足る姿勢で授業に臨んでください。

無線工学に関する学習では、授業だけではなく予習・復習を行うなど、自ら進んで学習に取り組んでください。

2 評価の観点

- ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評価項目
		考查	平常点	
①	知識・技能	50%	50%	定期考查・小テスト・授業態度
②	思考・判断・表現	50%	50%	定期考查・小テスト・授業態度・提出物
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	小テスト・授業態度・提出物